

ように理解されているのでしょうか。

質問4 如来寿量品第十六では「我が智力是の如し。慧光照らすこと無量にして、寿命無数劫なり」とあります。修行者はこの経文と日常の勤行をどう関連付けるのでしょうか。

質問5 法華経では声聞、縁覚、菩薩など二乗、三乗の区別はなくただ一仏乗のみあると説きます。現代の仏教徒にとって一仏乗の教えはどのような意味があると考えていますか。

質問6 法師品第十では「如来の滅度の後に、若し人有りて、妙法華経の乃至一偈一句を聞いて、一念も随喜せん者には、我また阿耨多羅三藐三菩提の記を与え授く。」また、分別功德品第十七では「其れ衆生有りて、仏の寿命の長遠なることは是の如くなるを聞きて、乃至能く一念の信解を生ぜば、所得の功德限量有ること無けん。…若し善男子善女人有りて、阿耨多羅三藐三菩提の爲の故に、八十万億那由多劫に於いて五波羅蜜を行ぜん。…是の功德を以て前の功德を比べるに、百分、千分、百千万億分にして其の一にも及ばず。」とあります。「たとえ一念でもよいから信解すれば限りない功德が得られる」という法華経の主張についてどう教えてしますか。

質問7 陀羅尼品第二十六では鬼子母と十羅刹女が法華経の行者を守護するために呪文を唱えています。そうした法師を悩ますものがあれば「頭破れて七分と作る」などと恐ろしい罰を下すと約束します。仏も「法華の名を受持せん者を擁護せんすら、福量るべからず」と答えています。こうした激しい内容と法華経の名をただ受持することの重要性を説いた経文をどう捉え説明しますか。

質問8 譬喩品第三に「もし人信ぜずしてこの経を毀謗せば、則ち一切世間の仏種を断ぜん」という恐ろしい罰が長々と書かれています。こうした激しい文をどう捉え説明していますか。

以上

【参考文献】

- 1 チャールズ・ブレビッシュ『仏教徒の展望概説』<http://www.lionsroar.com/surveying-the-buddhist-landscape/>
- 2 ダン・レイトン太源『時空の覚醒へのビジョン』オックスフォード大出版, 2007, pp80-81
- 3 同書, p.4
- 4 鈴木俊隆『法華経講義』著作権2001年サンフランシスコ禅センター
- 5 ティック・ナット・ハン『法華経の省察—行動の扉をひらく』パララクス出版, 2003, p.1
- 6 セミナーの内容は<http://www.webring.org>

【法華経に関する質問事項】

曹洞宗では法華経を重視する。『曹洞宗日課勤行聖典』でも自我偈と観音偈が載っているし、道元の『正法眼蔵』でも法華経から引用された比喻や経文が多く、「法華転法華」という章もある。このような観点から、現代のアメリカ曹洞禅僧にとって法華経がどのような存在にあり、経文をどのように解釈し、実践しているか、或いは除外している所はあるか調査することにした。得られた返答は日蓮宗現代宗教研究所で利用する。アメリカ仏教で法華経がどのような位置にあるかを理解してもらいたいし、また将来はチベット仏教や毘鉢舍那系列にも同じ質問をしてみたいと考えている。

質問 1 法華経を「釈尊の言葉」と考えていますか。もしそうなら、どういう風にそう捉えていますか。

質問 2 曹洞禅の法要式で使われる経典や文献（般若心経や陀羅尼、参同契、宝鏡三昧歌等）と比較して法華経はどれほどの重要性を持ちますか。

質問 3 観世音菩薩普門品第二十五の偈文で「彼の観音の力を念せば苦難や災難から逃れる」とあります。更に前半では「観世音菩薩の名を称せば苦難を脱し、福德智慧の男の子を生める」ともある。こうした経文は現代の北米の仏教徒にどの

の編集者や担い手たちが退くことはなかった。釈尊の根本精神は自分たちの手で『復活』させられている。自分たちの実践においてこそ、釈尊は生き続け、活動し続けることになる。そうした自負が、恐らくは、彼らを支え続けたのであろう。」と続けている。

法華経は史実上の釈尊によって直接説かれた教えではあり得ず、仏教の根本精神、本懐を表明しているとは言えないという『仏教の教え』の考え方は、私がインタビューした禅僧達の考え方と相通ずるものがある。もっと言えば、『仏教の教え』では法華経を通して釈尊とその教えは生き続けると述べている。だから、日蓮宗は北米で、より近代主義的な立場をとる仏教徒や仏教に対してポストモダニスト的なアプローチを試みる者に対して法華経の教えを説いてみることはさほど困難なことではないだろうと言える。

しかし、禅宗は折衷主義を取り入れ、法華経だけに拘らず、その教えや修行も、唱題や経典読誦よりも、座禅を重視している点が日蓮宗と異なる。仏教を教えるということにおいて、日蓮宗僧侶は基本仏教に関しては慎重な態度で法華経に関連する事柄を取り上げ、余り詳細には説明してはいない。だからと言って、仏教を教えるということに関しては、日蓮宗は禅宗に比べても狭量で排他的だとは言えない。教え方の中心が異なるのだ。特に行法に違いがある。禅宗でも時には法華経などのお経を唱えたりもするが、あくまでも付加的なもので、やはり座禅が主である。日蓮宗は逆だ。唱題行の中で瞑想をするが、法華経やお題目の為の助行に過ぎない。読誦行にも瞑想や沈思の要素もないとは言えないが、行を通じて信仰の対象はあくまでも法華経にある。法華経への信仰を中心とする修行法が北米で魅力的に広まるだろうか。禅僧から貰った答えによると、北米の禅宗信徒は仏教とその修行に心から打ち込み、信仰深くなっている。しかし、特定の経典に集中して信仰させるやり方で北米では人気が出て広まっていくかどうかまだ結論が見えてこない。

出来る仏法に帰依しなさいと説いていると理解されている。仏教の瞑想儀式に魅力を感じた人の中で法華経だけを信じて修行するという考えが広まることは時間がかかるかもしれないが、少なくとも曹洞禅関係者の中では法華経はよい刺激となって役立って行くように思える。

では実際に、日蓮宗の考え方と北米曹洞禅僧侶の考え方はどれほど違いがあるのだろうか。『仏教の教え～釈尊と日蓮聖人』という日蓮宗僧侶用のテキストを参考にしながら考えてみたい。『仏教の教え』では、法華経は史実上の釈尊によって直接説かれた教えではあり得ないとはっきりと述べている。第3章1-2で、「法華経は、釈尊の晩年、8年間の説法であるといわれる。信仰の立場に立つならば、確かにそれでよい。しかし、ここで厄介な問題が生じる。学問の立場に立つならば、そうとはいえないからである。仏教学の立場からは、歴史上の釈尊が法華経を説いた痕跡はない、という回答が下される。つまり法華経は歴史上の釈尊の直説ではない、ということである。」と述べ、3章最後には「法華経の一字一句が歴史上の釈尊の直説であることはあり得ない。釈尊の直説というには、あまりにも物語性が強すぎるのである。」とある。

3章の結論部分で疑問が持ち上がる。「では、その『釈尊の根本精神』とは何か。すでに繰り返し述べてきたところであるが、それは、『すべての者は成仏できる。成仏できない者など一人もない』ということである。恐らく、かかる精神を継承しているとの立場から、法華経の編集者たちは、当時の部派仏教や他の大乘仏教を、釈尊の根本精神からすでに乖離してしまっているものとみなした。部派仏教はそもそも成仏ということが視野になく、法華経以外の大乗仏教は、部派仏教の修行者＝二乗の成仏を認めようとはしないからである。こうした状況下、法華経の編集者たちは、釈尊の根本精神を『復活』させるべく、かかる根本精神を物語性豊かなストーリーで彩り、法華経という経典へと仕上げたもの、とみたい。」さらに、「しかし、だからといって、法華経

アの考え方がそのままアメリカに伝わってきたとは思わない。法華経とは仏法そのものであるとよく耳にする。法華経は仏法の真髄を述べていることは間違いない。経典そのものが大事なのではなく、仏の教えが説かれていることが大事なのだ。法華経には壮大な表現が多いが、信仰すれば無量の功德があると考えるのは、つまり仏法僧に頼るという意思表示をしているということだ。法華経はたくさんある扉や窓の一つに過ぎない。経典の文字そのものを重要視する者もいるだろうが、西洋人は法華経にそういう意図はないと解釈する。金剛経にも『一句でも唱えれば…』というような表現がある。特定の経文で言われていることだけを信じるのは仏教とは言えない。正に経典崇拜の状態に陥ってしまっているのだ。もちろん、そういう風に捉えても構わないが、あまり意義深い考えとは言えない。」

命脈に一念信解の持つ力についてどう思うか尋ねると、「一念の信解には強い力があり、業の観点からも人生の転換点になるほど重要だと確信している。解脱へと向かうのだ。こういうことが起こると理解出来なくても、業の観点から見ればとても影響が大きい。伝統の力が更にこれを後押しすると思う。」

以上のようなインタビューを参考にすれば、法華経は今後もアメリカの禅社会において重要な経典になるだろうが、歴史上存在した仏陀の文字通りの言葉として解釈されるとは考えにくい。法華経は「諸経の王」として最高位にあることは事実だが、他の経典よりも今後注目を浴びるという可能性は低い。法華経の教えは比喩が多く、壮大な表現が多用されている。「仏の寿命は無量である」という文は時間を超越し、自分自身の修行の中で仏の存在を確認したことを示すものであって、法華の行者を救う神聖なる仏の存在を文字通りに受け入れたということではない。同様に、法華経で説かれた脅しや授記は、三宝や仏道修行から逃げるか縋るかを決める際どれほど大きな影響を及ぼすかを強調したものだと言っている。「法華経に帰依せよ」と促す経文は、仏道修行で達成

法師品第十には「如来の滅度の後に、若し人有りて、妙法華經の乃至一偈一句を聞いて、一念も随喜せん者には、我また阿耨多羅三藐三菩提の記を与え授く。」また、分別功德品第十七では「其れ衆生有りて、仏の寿命の長遠なることは是の如くなるを聞きて、乃至能く一念の信解を生ぜば、所得の功德限量有ること無けん。…若し善男子善女人有りて、阿耨多羅三藐三菩提の爲の故に、八十万億那由多劫に於いて五波羅蜜を行ぜん。…是の功德を以て前の功德を比べるに、百分、千分、百千万億分にして其の一にも及ばず。」とある。

こうした授記に関して、グレゴリーは「これについては議論したくない。經文は活気を与え、やる気を引き出せるきっかけになる。しかし、教えを汚すために使用されることもある。」彼が心配しているのは、こうした授記の經文は道德律反対主義を正当化することに使われるのではないか。つまり、善行を積むより、信仰によって全て救われることが保証されているのだから、非道德的行為に及んでも何ら不安はないという悪意ある解釈になることを恐れているのである。

太源は「シカゴ大学ブルック・ジポリン教授の書物『空と偏在～天台仏教入門』100～102頁で述べている所が素晴らしい。かいつまんで話せば、經典の一句を聞いて随喜する者は、未来仏の自分からみて、過去仏の自分なのである。そう解釈すればあらゆる存在が仏なのだという。こういうのは信仰ではないと言う人もいるだろう。しかし、修行經驗を通していつでも得られる現実と、未来の悟りの姿を述べている。」

命脈は大乗仏教の經文で使われる極端な表現を面白いと感じている。「これぞ大乗經典だ。他の信仰と同様、仏教の正典にもある種のパターンがある。經典崇拜だと言う人もいる。特定の經典への思い入れが強くなり、その經典にはあらゆるものを救済出来る神聖な強い力があると考えてしまう。伝統的なアジ

ように心掛けています。法華経を信奉しない者にとって、こうした文は恐ろしい罰としか解釈できない。法華経の目指す大いなる志については高く評価するが、全てを字義通りにとるべきではない。仏教指導者として私の務めは、伝統的な仏法の教えを現代の文化文明の合わせて説いていくことだ。道元禅師の言葉でさえ、私はそのまま全て受け入れるということはない。」

グレゴリーは拒絶はしなかったが、こう警告する。「物質主義者の見解によって誤解されている文章だ。法華経は行者の疑念を払う役割を果たしている。疑念があると地獄に堕ち、疑念を抱いたまま地獄で成長することは出来ない。少林寺では誰でも僧伽に入れるように修行者同士、良好な関係が築かれるようになっていく。これは瞑想や武道、書道、人間関係、共有体験においては大きな強みとなる。しかしこれが上手く行くと、政治的支配に繋がることがある。だから私的に流用して集団を悪い方に堕落させないように警告しているのだ。重要なのは、仏の教えや法華経という名前そのものを汚されたり、悪用されてはならないということだ。」つまり、法華の行者を誹謗する者への恐ろしい脅迫は、法華経の教えを利己的に悪用されることを防いで、僧伽の清廉さを保つためのものだと解釈してよい。

命脈は「あまり大きな意味にとらえていない。業という観点からすれば、こうした脅迫的な教えを非難すると、大きな罪障をもたらすし、非難の言葉を聞いた人が、自分ではどうしようもない悪い結果に陥ってしまう。『頭破作七分』を文字通りに受け止める気にはならないが、罪障を作ってしまうと考えるだけで、解脱からは遠ざかり、我執に捕われ、他人をも巻き込む結果につながる。そういう状態こそ一番深刻な業を背負うことになる。経文を文字通りに受け止めてしまう人もいるだろうが、そうなると経文の真の意味を理解することは難しくなる。」

命脈は「伝統仏教では仏陀はインド北東部の紀元前5、6世紀頃歴史上存在していたと考える。しかし私の師僧の教えでは、菩薩こそ理想の姿だとする考えが広まり、人々の心を掴むと、釈迦牟尼仏陀は困ったという。菩薩が我々凡夫を悟りの道に導き、輪廻の海を永久に脱してしまつたら、置き去りにされた悩める人々のことなどどうでもよくなってしまう。そういう人を無視してよいだろうか。そういう意味からすると、仏の永遠の生命は我々の中にある。仏教徒として何世代にもわたって修行してきた我々の生命とつながっているのだ。このようにして仏教は代々語り継がれ、進化を遂げてきた。仏がいなくなることはない。チベット仏教では悟りを開いた化身ラマが、眼には見えないが巧妙な形に姿を変えて救済活動を行っていると言いが、我々は化身の救済を黙って座って待っているだけでは駄目なのだ。我々自身が化身になることだ。東アジアの人にこのことを言うと、悲しげに首を振って『この人は信仰心が足りない。』と言うだろう。それはそれで仕方がない。西洋人の信仰とはこういう風に成り立っているのだから。」

次の質問は西洋人仏教徒には受け入れ難い内容であろう。自分が生まれ育った宗教から自らの意志で仏教に信仰を変えた者が多いし、仏教が道理に適う教えで、自己修練に根差した教えだから仏教徒になったのだ。法華経に帰依しない者に恐ろしい罰があると脅したり、一念でも信解すれば功德があるという一見無茶な保証について書いた経文が最も理解し難いことだろう。例えば譬喩品第三の偈文で「この経を誹謗する者には恐ろしい罰が降りかかるだろう」、陀羅尼品第二十六で「鬼子母や十羅刹女が陀羅尼を唱えて法華の行者を守る。その行者を苦しませれば、頭が7つに割れてしまうような罰を受けることだろう。」とある。仏も「法華の名を受持する者を擁護することだけでもその福は量りしえない。」と答えている。

太源は特にこの経文に拒否反応を示す。「無視するか、文字通りにとらない

する話では、一旦外に出てしまえば、表面的な事柄には関心が行かなくなり、ただ一仏乗のみ存在することに皆が気付く。そこでは誰もが自由に参加出来、修行出来る。会員である必要はないのだ。」

「だから、一仏乗の教えによって、エリート意識や派閥主義、排他主義を取り払うことが出来る。そこが重要なのだ。もちろん、宗派色の強い者も仏教徒の中にはいないわけではないが、そういう人は仏教を誤解しているし、法華経がその間違いをはっきり示してくれている。道元禪師は『教授戒文』の十重禁戒第2の【不偷盜戒】の中で『心境如如にして解脱門開けり』と述べている。」

グレゴリーは修行中の信仰面を強調する。「一仏乗の教えを信じることだ。自分の心を信じる事が出来るかどうか。自分自身を信じるために、比喩の持つ力によって生理的な門を呼び起こすことが出来る。そうしなければ意味がない。これは絶対必要なことだ。」

仏の計りしえない寿命の長さについてはどうか。グレゴリーは「永遠性は重要だ。時空を超えた想像世界の存在に気付くことが必要である。」ここで言う「想像世界」とは日常得られる感覚の世界と、物質的時間と空間を越えた本質世界との間に立つ認識領域のことを指す。グレゴリーによれば、瞑想中は自己の丹田や呼吸を意識するだけでなく、自分の想像力を越えた本質世界を感じる事が出来ると言う。生死の区別のない仏の世界を認識出来る。これぞ正に如来寿量品第十六で説かれていることだ。

太源は仏の長い寿命について、「通常の法会でもこの話をする。道元の解釈を調べた上で、想像出来ないほど長い仏の寿命のことを話す。修行中も仏は生きて我々のそばにいる。修行することによって仏の存在に気付き、我々の苦しみにも仏はどう応えてくれるだろうかと参加者に問いかけている。」と語る。

一仏乗の教えに関して、三人の禅僧にとって最も重要なのは、その包括性であるようだ。太源は「一仏乗の教えの素晴らしさは包括性にあると思う。他宗教の良い面に対して敬意を表する現代の多文化宗教社会では、阿羅漢こそ最高の菩薩であると考えられている。だからと言って、他宗の有害かつ非道で独裁的な特徴を無視して取り上げないようにしているということではない。」

命脈も同意見だ。「西洋社会では一仏乗の強み・美点は、生きとし生ける全てのものにあてはまるということだと思う。チェンバース・ブラザーズのヨルダン行きの列車について歌った古い歌の中に、『切符はいらない。ただ乗るだけでいい』という歌詞がある。」

題名を調べてみると、『ピープルゲットレディ（People Get Ready）』という歌だ。元々はインプレッションズというグループが1965年にレコードを出し、チェンバース・ブラザーズを始め、数々のバンドがカバーした。ゴスペル調の歌ではあるが、歌詞の中にいくつか一仏乗の教えが見られる。第1節では「みんな準備はできてるかい。列車が来るよ。荷物なんかはいらない。乗るだけでいい。信じる心があればディーゼルのうなりが聞こえる筈さ。切符はいらない。神に感謝するだけでいい。」

命脈は言う。「この歌詞が私なりの一仏乗の教えに対する理解だ。全てのものが含まれる。みんなが歓迎される。忠誠の言葉を言ったり、指を切って血文字の経文を書き出す必要はない。乗り物は大きいから、誰もが例外なく乗り込める。意識しない内に乗っているんだ。」

行という観点から見るとどう解釈出来るか。命脈は「そういう心構えで相手と接することが重要だ。一仏乗では、誰もが既に救われている状態である。法華経には意義深い物語が沢山描かれている。父親が子供達を外に出そうと努力

ら、アメリカ人仏教徒が観音經の言葉を文字通りに受け止めているかは疑問だ。西洋圏で受け入れられるとも思えない。もう少し心の面から比喩的に捉えたらどうだろうか。観世音菩薩の名を呼ぶとはどういう意味か。観音様がどこかにいてあなたからの電話を待っているわけではない。法華經第二十五章で観音様は慈悲心をもった化身の姿として扱われている。だからまったく人間と無関係なわけではない。『観世音菩薩の名を称す』とは、自分自身の中に備わっている慈悲の心と呼び覚ますことなのだ。仏教とは、自制と不執心の修行をしたい者が、処刑人の刀が壊れて避難出来るように願うことではない。慈悲心と呼び起こす、つまり、鈴木俊隆老師の言葉を借りれば、臨終の際でも礼拝することが大切なのである。これこそ大慈悲の菩薩心ということだ。慈悲の心を目指すため、大きな危機の中でたとえ刀が段々に壊れなくても、それはそういうものだ と捉えることだ。『ああ、観音様が渋滞中の私の車を引っ張り上げてどこか空いている所へ連れて行ってくれますように』という考えは間違っている。」

命脈はまた、「アメリカでも、法華經の話は正に聖書のように真実だと信じる人もいるのかもしれないが、私はまだ会ったことがない。アジアでは恐らく存在するだろう。精神面での解釈の違いがある。西洋では伝統的に科学的且つ心理学的分析による研究が盛んで、そういう点から信仰を語る為、法華經の額面通りの解釈には馴染めない。これはキリスト教の解釈についても言えることなのである。現代の西洋仏教ではなかなか受け入れ難いのだ。」

天台と日蓮聖人の法華經の解釈によれば、二つの重要な教えがある。一つ目は、声聞・縁覚・菩薩といった二乗や三乗の教えではなく一仏乗を以て法を説くという教えである。二つ目はもっと重要で、釈尊の寿命は永遠不滅であり、「我が智力是の如し慧光照らすこと無量なり」という教えだ。法華經が歴史上実在した仏陀の実際の言葉であると西洋仏教徒が受け入れないとすれば、この二つの教えはどれほどの重要性や影響をもたらすのだろうか。

人々は法華経を高く評価してきた。とても素晴らしいことである。だからと言って、法華経が般若心経や華嚴経などより勝れているとは言えないのだ。ただ曹洞宗では、法華経から引用された陀羅尼を唱えているように、法華経を經典のピラミッドの最高位に置く人は多い。」

法華経が他の經典より勝れているとは言えないと命脈が述べた理由は、「法華最勝」を唱えればそれ以外の經典は不要になってしまうからだ。「実際のピラミッドでは煉瓦を取り除くとピラミッドは崩壊し、頂上にあるものも全て崩れ落ちる。」言い換えれば、法華経が他の經典の代用にはならないし、包括するわけでもない。經典の中では冠石の存在となっているだけなのである。

法華経の存在を高く評価すると、観音偈で「彼の観音の力を念ぜば困難や災厄を逃れる」のようないささか極端な表現はどういう効果があるだろうか。「観世音菩薩の名を称せば、法華経の行者は苦しみから逃れ福德智慧の子供を産む功德を得る」という箇所もある。このような表現は現代の北米の修行者にとってどのように捉えればいいのだろうか。

グレゴリーは「観音の名を称えることで慈悲心のある非人格的な空なる姿に頼ろうとしている。」と言う。

太源は「文字通りに解釈する者もいれば、観音様の慈悲の力を呼び起こそうとすがっても意味がないとする人もいる。私の寺では通常観音偈を唱えるが、アメリカ曹洞禅では唱えていない所もある。」と解釈している。

命脈は、「東アジア仏教についてあまり知られてない所は、平信徒が熱狂的に信仰する姿である。軽蔑的な意味で言っているのではない。中流家庭で近代教育を受けた西洋人仏教徒にとって、あまり見られない光景なのである。だか

や文献（『寶鏡三昧歌』←中国曹洞宗開祖洞山良价作）と比べてどうか。「禪宗ではそれぞれ別箇に扱ってはいない。各々が互いに関連して影響し合うものだ。」とグレゴリーは語る。つまり修行の場で全てが結び付きを持って初めて相乗効果が生まれるということだ。

太源は「道元にとって法華経が最も重要な經典であることは間違いない。しかし、過去の曹洞禪系の僧侶が引用した經文に関して、全てひとまとまりで考えるので、各々の重要度に順位をつけることにはあまり意味がない。禪は法華経がもたらした大乘仏教運動の中の一つであるが、一部のアメリカ系禪宗派が法華経と大乘仏教運動の影響を知らないのは残念なことだ。」だから、太源は、グレゴリー同様、道元と禪宗にとって法華経は重要だと認識していても、全ての經典と禪関連の文献を「ひとまとめ」にして初めて生きてくると考える。

法華経の知名度と重要度に関して、命脈は、禪の指導者は少なくとも伝統的に法華経が東アジアの仏典の中で最も勝れた經典だとしていると認める。「もちろん、法華経は際立った存在だ。華嚴経ほど途方もない量があるわけでもなく、程々の長さで読み手が喜ぶような内容が詰まっている。物語もあり、描写も美しい。修行や生き方にやり甲斐を見つけることが出来、宗教文献が何百年も生き残るのに必要な要素を全て満たすほどの魅力がある。とりわけ、仏陀が靈鷲山で説法を始める場面が印象的だ。法華経は釈尊が説いた絶対的な言葉であり、法華経こそ究極的な教えを説いていると考える東アジアの人々にとってこれだけで十分である。大乘仏教信仰者にとって法華経は仏の教えを映す素晴らしい鏡なのだ。曹洞禪では天台智顛の説いた法華経の有名な文、素晴らしい表現を取り入れてきたし、法華経を読んだ者もこれは究極の教えだと断言する者もいる。歴史の変遷のことはよく知らないし、昔の人々が何故こんなに法華経を賞賛するのか理解し難い所もあるが、日本でも同じような評価を得た。歴史上智顛という人物はいささか空想表現を好む傾向にあると分かっている、

太源は条件付きだが、もっと肯定的にとらえている。「文字通り釈尊の語った言葉であろう。間違いない。久遠の法身仏が説かれている。全体として法華経は深遠なる覚醒を発表・宣言したものである。但し、経文のすべてをそのまま受け入れる必要はない。例えば、薬王品の焼身供養の箇所はどうも私は好きになれない。ヒンズー教の自己犠牲の儀式から派生しているように思えるのだ。」

こうした回答は鈴木禅師の考え方と一致する。1968年の講義の冒頭、「法華経は仏陀自身が説いた教えだとされているが、実際は入滅後700年してから出現したものである。だから歴史的な観点からすれば釈尊の説いた経典とは言えない。では誰が法華経を説いたのか、或いは、全ての経典が釈尊によって説かれたかと訊かれれば、『一部は釈尊が説いたものだ』と答えることになる。しかし、釈尊が説いた教えがそのまま残っているわけではない。小乗の経典でさえも釈尊の説いた教えの通りに弟子達が受け継いできたわけではないし、釈尊の説いてないものもある。まして大乘経典は釈尊が説いた教えである筈がない。しかし、応身仏や史実上の釈尊ではなく、報身仏が説いたから法華経は仏典とされるのだ。釈尊は自分が生まれるずっと前から法華経の教えが存在していることを知っていたし、報身仏や毘盧遮那仏が遠い昔から説いてきた教えだと言ってよい。次第に経典として編集されてきたから、史実の釈尊が説いた教えとは言えないのだ。要は、法華経が史実上の釈尊かその他の人が説いたかどうかは問題なのではない。そこに拘ると仏教が理解出来なくなる。釈尊が素晴らしいのは、物事をこのように捉えていたからである。」

このように、法華経を含め大乘経典は一般的に「釈尊の金言」だとされている。僧伽で長期間修行して悟りを得るといふ仏の意志を表したものだと言われている。グレゴリーによれば、「修行を経験することによって真仏の生命がもたらされる。」という。では、曹洞禅で使用される他の経典（『般若心経』）

究で分かったことは、法華経はそれから700年後の2世紀末頃に編集・成立し、広まったという。』⁵

私は北米で何年も法華経を学び、修行し、教えてきたが、法華経が歴史上実在した釈尊が発した言葉がそのまま説かれたものだと信じる人に殆ど会ったことがない。唯一の例外が、1990年に私が海軍少尉だった頃、カナダ・バンクーバーに滞在中、中国系寺院を訪ね、数名の尼僧と話した時のことだ。法華経が釈尊存命中の出来事だとは信じられないし、修行などしても意義を見いだせないとい私が告げた時、尼僧達は大変驚いていた。1999年4月パークレー禅センターで法華経について講義をした時、アメリカ人仏教徒から頻繁に受けた質問がある。まず、「仏教史研究者は法華経が釈尊の説いたものと考えているだろうか。」と質問され、次に「法華経は伝統的な信仰から釈尊の説いた教えだとされているが、釈尊存中には実際に存在した教えではなかったことははっきりしている。」と断言してきた。民族的な背景により法華経を信奉してきた人や日蓮宗の僧侶の中でも、仏の教えの本懐を信仰面から表現したものだという考え方はあるにせよ、法華経が歴史上実在した釈尊の説いた教えだと言い切る人に会ったことがない。

法華経が「釈尊によって説かれたお経」かどうかの質問に命脈はこう答えた。「歴史的に見ても難しい問題だが、大乘を広い意味でとらえれば、釈尊の言葉だと断言出来る。仏教の教えは残存しているものだけで判断するものではない。もちろん、伝統教団の信徒が信じているように、どの経典も間違いなく釈尊が言った言葉だと断定出来るわけではない。特に小乗の者は、小乗経典こそが釈尊が実際に述べた言葉であると信じているが、それを支持する人はいない。だから問題は、『釈尊は当時実際に信徒の前で語ったのか』ということである。語ったとは思ふ。弟子・信徒の前で悟りの道を説き続けたから、仏教は受け入れられ、発展して行き、今日でも教えが説かれているのである。」

1968年から69年の秋季修行期間に鈴木禅師はアメリカの学生に法華経について講義をした⁴。発行元のウィンドベル社編集者が前書きで法華経について、「大乘仏教で諸経の王とされる法華経は、過去の偉大な先人たちも後期大乘仏教の真髄に触れた教えだと考えてきた。天台宗や日蓮宗で最重要な経典となっているし、大乘のほぼ全ての宗派で中心的役割をしている。日本の禅宗でも、曹洞宗や臨済宗で法華経を学び、読誦し、重要視している」と述べている。だから、アメリカ禅の創設当初から法華経は大変重要な経典だと強調されてきた。この記事の後半で鈴木禅師の法華経にたいする具体的な考えについて述べてみたい。

現代の北米の曹洞禅僧の中で法華経が実際どのような評価を受けているかを知るために、北米で3名の曹洞宗僧侶にインタビューをして、各人が法華経をどのように捉えているか調査した。仏教改宗者からすれば挑発的ともとれる法華経の主張に対して、3名がどのように答えるかに特に興味があった。1人目はメールでやり取りしたダン・レイトン太源師。曹洞宗僧侶で鈴木俊隆禅師の法灯継承者だ。現在はイリノイ州シカゴで古龍禅門を開創し、指導にあたっている。2人目はグレゴリー・ウッド師で、鈴木禅師から初めて法灯継承を受けたりチャード・ベイカー禅達に45年師事した学僧である。グレゴリーは自らを「無位真人」と呼び、サンフランシスコ日本街で書店を経営する傍ら、毎週土曜日に座禅会を開いている。3人目はハートフォード禅センターのデニス・レイヒ命脈禅師で、彼も鈴木禅師から法灯継承を受けている。

まず、法華経がどのような形で「釈尊の言葉」とみなされるようになったのかを考えてみなければならない。有名なベトナム僧ティック・ナット・ハン師は、仏陀が実際に法華経を説いたとは考えていない。「他の多くの大乘経典と同様、法華経は何百年もかかってゆっくり編集され、成立した。紀元前485年から565年頃インド霊鷲山で法華経が説かれたと考えられる。最近の経典の研

「学生の中に、若いのに教養もあり、ゲシェー位（チベット仏教の最高位）を持つチベット僧がいました。菩薩道を得る為に生涯を捧げる修行に傾倒していましたが、法華經のことを知りませんでした。チベット仏教では殆ど取り扱わないからです。授業で法華經を取り上げた時、彼は戸惑い、ショックを受けていました。仏を供養する者は子供でも将来の成仏が保証されていたり、法華經そのものを信じなさいと説かれているのを知って、彼は茫然として首を振り、『仏様がそんなことを言うとは信じられません！』と叫ぶように言ったのです。』²

北米で知名度もあり信徒も多い伝統宗派の中で、法華經の教えを実践しているのは禅宗だけなのかもしれない。『曹洞宗日課勤行聖典』には読經用に自我偈と観音偈が掲載されている。道元の『正法眼藏』には法華經の文句が沢山引用されているし、「法華転法華」という章もある。レイトン太源師は曹洞禅の開祖について以下のように述べている。

「道元は大乘經典の經文をよく引用する。とりわけ妙法蓮華經からの引用がとんでも多い。法華經は道元が最初に出家得度した天台宗で最も重要とされているお経だ。中国で4年程禅の修行をして1227年に日本に帰国し、禅の教えを弘めた。公案にも優れていた道元は、1253年に入寂するまで法華經を多用し尊重した。』³

私が暮らすサンフランシスコで曹洞禅は強い存在感を見せている。1962年に鈴木俊隆禅師がサンフランシスコ禅センターを設立したからで、近隣の初心寺やタサハラ禅マウンテンセンター、グリーン・ガルチ農園禅センターを包括し、ハートフォードストリート禅センター等、ベイエリア周辺の禅道場と提携している。

研究・調査プロジェクト報告 2

〈海外宗教研究PT〉

北米禅宗における法華経の位置

マコーミック龍英

法華経は何世紀にも亘り東アジアの仏教、特に日蓮宗や天台宗その他新興宗教で重要な役割を果たしてきた。しかし、北米で仏教に改宗した者の大半は法華経等の大乘経典の行法を知らず、座禅などの瞑想法に興味を示す。チャールズ・プレビッシュ氏はその著『仏教徒の展望概説』の中で述べている。「創価学会に改宗した者を除けば、アメリカ人仏教徒は禅や密教、毘鉢舍那瞑想に惹き付けられ、アジア系移民は、浄土教等、親の信仰を引き継いだ儀式を重んじる信仰を続けている。」¹ サンフランシスコ周辺の書店で仏教書を探すと、禅やチベット仏教、毘鉢舍那瞑想から派生したマインドフルネス行に関する書物は、概略・入門編・上級編など種類が豊富に揃っているが、東アジアの浄土教や法華経の修行に関する書物は極めて少ない。こうなると、日蓮宗僧侶である私から見ても、法華経が北米で今後重要な役割を果たして行けるか疑問に感じてしまう。

法華経の将来の見通しは明るいとは言えない。毘鉢舍那行は小乗仏教から生まれ、大乘経典を正典とは認めていない。マインドフルネス行に励む人の多くは宗教色を排除した行法を好み、伝統的な仏道修行と切り離して考えている。チベット仏教でも法華経の存在を認めてはいるが、それほど重要視していない。カリフォルニア大学バークレー校のジャン・ナティエ教授はチベット僧の学生から次のような反応があった。